

令和8年度「実施計画 兼 まちづくり達成状況報告書」（事務事業点検シート）

課等名：商工観光課

シート No.：125

作成日：2026. 6/16

（１）総合計画上の位置付けと事務事業の背景・目的と目標

後期基本計画	施策の大綱	VII行財政運営の効率化	事務事業の背景・目的 常総市では、人口減少に伴う労働者不足や地域産業の担い手不足、高齢化に伴う交通弱者の増加、生産年齢人口の減少に伴う地域経済の縮小など多くの社会課題が顕在化しています。 この課題に対応するため、近年急速に進歩・発展する AI などの先端技術を活用した若年層が定着しやすいまちづくりに取り組みます。	事務事業の目標 AI などの先端技術を活用する企業を誘致し雇用の機会を創出することで、若年層を中心とした生産年齢人口の還流を目指します。 合わせて、市内小中学生に対し AI 教育・キャリア教育を進め、将来の AI 人材を育成することにより、本取組によって集積していく企業等の雇用需要を満たし、若者が戻ってこられる持続可能なまちを実現します。 さらに、AI 教育に加え、民間企業が主体となって取組む AI を用いた地域課題解決プロジェクトも推進します。 上述の取組は、市と㈱本田技術研究所を含む民間企業で構成される「常総 AI まちづくりコンソーシアム」（以下、コンソーシアム）を主体的に取り組みます。 また、㈱本田技術研究所との協定に基づく取組として、市内での自動走行技術実証実験（以下、実証実験）に協力し、移動と暮らしの進化を目指します。
	施策の目標	3 市民満足度の高い行財政運営を進める		
	施策	1 連携事業		
	施策内容	AI まちづくりの推進		
	その他、拠法令及び分野別計画等	じょうそう未来創生プラン後期基本計画（R 5～9 年度）		
事務事業名		AI まちづくり推進事業		

（２）アクティビティ（活動・事業）とアウトプット（結果）

（３）インプット（投入）

No.	アクティビティ（活動・事業）		アウトプット（結果）			R 8 予算額	R 8 決算額
	活動名・事業名 （対象年）	R 8 活動・事業内容	指標名（単位）	R 8 目標値	R 9 目標値		
				R 8 実績値	R 10 目標値		
①	AI まちづくり関連会議の開催 （R 8・9・10）	コンソーシアムの運営会議や㈱本田技術研究所との会議を適宜開催します。また、教育、農業に続く新プロジェクト立上げを目指します。	会議回数（回）	48	48	6,600 千円	千円
②	AI ロボットプログラミング講座の開催 （R 8・9・10）	市内小中学生を対象に、AI やプログラミングに触れる場を提供するために、AI ロボットプログラミング講座を開催します。	実施回数（回）	14	14	15,161 千円	千円
③	あすなろの里での AI モビリティ体験乗車 （R 8・9・10）	市内外の来園者に対し、AI まちづくりの取組 PR や AI などの先端技術に触れる場を提供することを目的に、AI モビリティ乗車体験を開催します。	参加者数（人）	500	500	1,029 千円	千円
④	市内イベントでの AI まちづくり PR 活動 （R 8・9・10）	市内企業イベントにおいて、AI まちづくりの取組を周知するためのブース出展を行います。	ブース出展回数（回）	4	4	千円	千円
⑤	情報発信 （R 8・9・10）	SNS や広報紙において、AI まちづくり関連情報を発信します。	発信回数（回）	36	36	千円	千円
⑥	AI を用いた地域課題解決プロジェクト支援 （R 8・9・10）	民間企業等が主体となって取組む AI を用いた地域課題解決プロジェクト活動を支援します。	プロジェクト件数（件）	3	4	6,181 千円	千円
⑦	市内事業者を巻き込むためのイベント開催 （R 8）	各プロジェクトを推進するため、市内事業者の参画を促すことを目的とした交流イベントを開催します。	参加事業者数（者）	10		1,650 千円	千円
⑧	（仮称）未来交通創造プロジェクト （R 8・9・10）	レベル 4 自動運転を活用した公共交通システムの社会実装に向け、庁内横断的なプロジェクトを立ち上げ、庁内調整会議を開催します。	会議回数（回）	24	24	千円	千円
⑨						千円	千円
⑩						千円	千円

（４）アウトカム（成果）

成果に関連する上記（２）の活動名・事業名（No.）	指標名（単位）	指標の設定理由と目標値の根拠 （目標値を達成することにより市として何が達成されるか）	R 7 現状値	R 8 目標値	R 8 実績値	目標年度 目標値
① ・ ② ・ ③ ・ ⑧	本事業に関連する新規雇用者数（人）	「あらたな産業と雇用の創出」により若年層が戻りやすいまちを目指しており、本指標が増加することにより、若年層が定着しやすい雇用の創出が達成すると考える。（R6:5 人 R7:7 人 R8~10:各 10 人）	累計 26	累計 31		令和 10 年度 累計 42
④ ・ ⑤ ・ ⑥ ・ ⑦	コンソーシアムプロジェクト数（件）	「あらたな産業と雇用の創出」により若年層が戻りやすいまちを目指しており、本指標が増加することにより、新たな産業の創出が達成すると考える。（毎年度、1 件立上げ）	累計 2	累計 3		令和 10 年度 累計 5

（５）目的・成果の達成に向けた点検・改善

業務の振り返り	改善の余地	今後の方向性
	☐ コスト ☐ 活動 ☐ 成果 ☐ その他	